

政策評価調書

資料1

政策名	1 豊かな自然環境と安全・安心な生活環境の創生【自然・生活環境】
総合計画頁	P27～36

関係部局	地域振興部、市民生活部、福祉保健部、建設部、農林水産部、防災局、消防本部
------	--------------------------------------

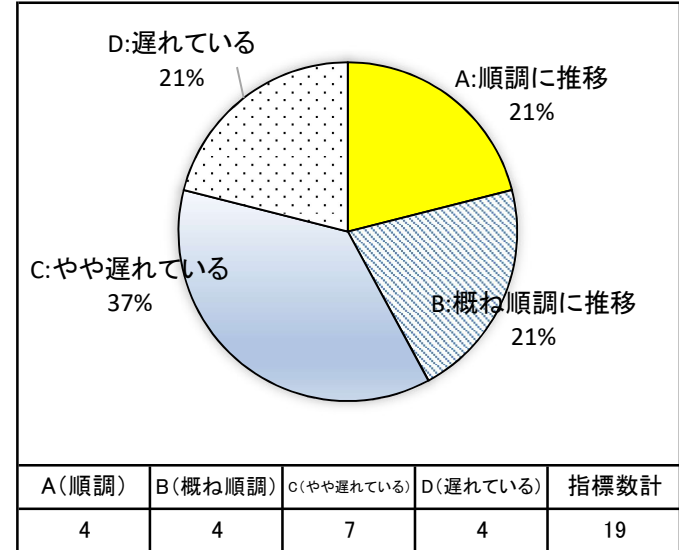
【1 政策の概要】

山・川・海の豊かな自然環境と美しい景観を次世代に引き継いでいくため、人と自然が共生するまちづくりを進める。あわせて、清潔で安全な生活環境を構築し、市民生活の安定や快適性・利便性の向上を図る。特に、地震・津波・台風などの自然災害に対しては、地域防災力の高い、災害に強いまち(人)づくりを進める。

【2 政策を構成する施策の評価結果】※目標指標ごとの区分で作成

施策名		取組評価	指標評価	総合評価
1	自然環境の保全	B	D	C
2	快適な生活環境の確立	B	C	B
3	住宅環境の整備	A	B	B
4	公園緑地の整備	A	C	B
5	景観の形成	A	A	A
6	災害に強いまち(人)づくり	B	B	B

【3 各施策の目標指標の進捗状況】



【4 評価が「D:不足している」となった主な取組】

施策名	-	施策名	-
主な取組	-	主な取組	-

【5 評価が「D:遅れている」となった目標指標】

施策名	1 自然環境の保全	施策名	1 自然環境の保全
指標名	保育間伐の実施面積(総数)【P28】	指標名	森林ボランティア参加者数【P28】
実績値	35.36ha	目標値	78ha
実績値	延べ218人/年	目標値	延べ600人/年
≪「遅れている」となった理由≫ 保育間伐の実施面積は、総数でなく単年度当たりの面積で表示されているが、造林事業においては、近年、再造林、鳥獣防護柵(シカネット)及び下刈の事業量が多くなっており、保育間伐を実施すべき箇所が実施されていない状況となっているため。		≪「遅れている」となった理由≫ 森林保全のための森林ボランティア等による植林活動については、市報に掲載はしているものの、周知不足により参加者数が伸び悩んでいる。また、日程を変更できないため、天候不良の場合は、屋外での植林活動から屋内での森林教室などに内容が変更になり、参加者数が少なくなる場合がある。	

施策名	1 自然環境の保全		施策名	6 災害に強いまち(人)づくり	
指標名	地域美化運動の参加者数【P28】		指標名	消防団員数、女性消防団員(内数)【P36】	
実績値	1,676人/年	目標値	8,580人/年	実績値	1,670人(21人)
		目標値		実績値	1,880人(35人)
<<「遅れている」となった理由>> さいき903クリーンアップ大作戦を実施した。節目の第10回開催であり、区長会長がケーブルテレビの特集に出演し、市民の参加を呼び掛けた。また、初めて市内高校へボランティアの呼びかけを行うなど、新たな参加啓発の取組を行ったが、平成30年度は、一日中大雨であったため中止した地区が多く、参加者が少なかった。			<<「遅れている」となった理由>> 消防団員の入団促進に向け様々な活動を実施したが、基本団員の減少を食い止めることができていない。 女性団員については、少しずつ活動が浸透してきて、増加傾向にある。		

【6 総合計画審議会、地域振興審議会が出された主な意見】

施策名	6 災害に強いまち(人)づくり	施策名	-
・災害時のサイレン及び放送について、危険な状況を知らせる一方、不安になる人も多い。取るべき行動を伝えるのと同時に、落ち着き安心するよう細かく情報を伝えてほしい。例えば、FMラジオで落ち着く音楽を流すなど。			

【7 政策の今後の展開】

自然環境については、山・川・海の物質循環保全の取組を継続していく。日本一の花のあるまちづくりの取組としては、『さいき花の楽園構想』を策定した。今後は、庁内連絡会議を立ち上げ、構想の趣旨・目的への理解を深め、実行計画の作成等を行い、市民総参加の活動として定着を目指していく。

快適な生活環境の確立については、ごみの減量化のための3Rの啓発や老朽化した火葬場、廃棄物処理施設の計画的な改修を進めていく。

住宅環境の整備については、それぞれの分野で取り組んでいるが、費用負担や周知不足等により耐震化率の目標が達成できていない状況である。今後も社会福祉の増進を目的として、住宅各施策の周知徹底と環境対策に積極的に取り組む。

緑の基本計画については、社会情勢の変化やそれに伴う課題を踏まえ、長期未整備の公園緑地を中心とした「新たな時代に対応した公園緑地のあり方」について、事業量と最優先すべき事項を検討し、地域の公園緑地に対するニーズを把握しながら何処に主眼を置くかを見極めて機能を検討していく。

景観計画の策定に伴い景観条例を制定する中で、太陽光発電や風力発電など再生可能エネルギー施設の景観に対する影響を考慮し、規制の範囲をどこまで行うかが課題である。また、重点景観形成地区についても市民生活に悪影響が出ないように規制の範囲を考える必要がある。

災害に強いまち(人)づくりについて、地域防災力を強化するため、地域避難訓練モデルの提案や防災・行政ラジオの普及率の向上、消防団員の確保に努める。また、豪雨災害に対する内水被害対策や流木被害に対する河川沿いの人工林の伐採を行い、災害に強い山林・河川づくりに取り組む。

政策評価調書

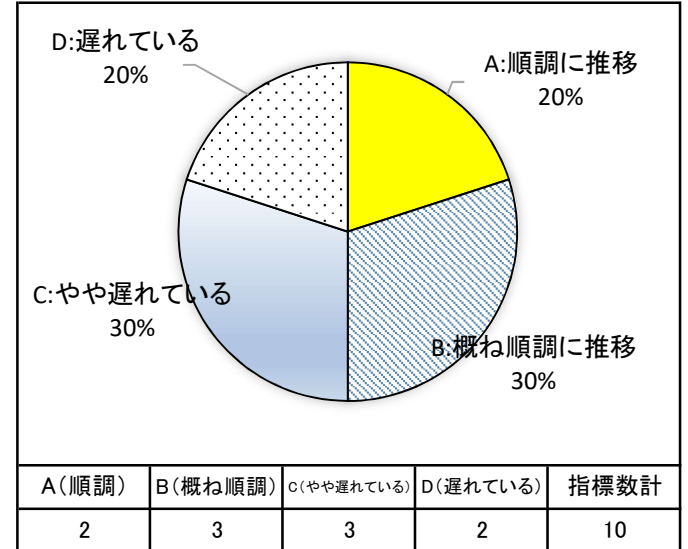
政策名	2 暮らしと産業を支える生活基盤の創生【生活基盤】		
総合計画頁	P37～43		

関係部局	総務部、地域振興部、建設部、農林水産部、上下水道部
------	---------------------------

【1 政策の概要】

市民生活を支える水道、下水道、道路・情報インフラなどの整備や公共交通網の再編等を進め、安全で利便性の高い市民生活の確保に努める。あわせて、中心市街地の整備を進め、人が集う街の実現に取り組む。

【3 各施策の目標指標の進捗状況】



【2 政策を構成する施策の評価結果】※目標指標ごとの区分で作成

施策名		取組評価	指標評価	総合評価
1	水道の整備	B	A	B
2	下水道の整備	C	C	C
3-1	道路・情報インフラの整備<<道路インフラの整備>>	A	B	B
3-2	道路・情報インフラの整備<<情報インフラの整備>>	C	D	D
4	生活交通体系の構築	C	C	C
5	中心市街地の活性化	B	B	B

【4 評価が「D:不足している」となった主な取組】

施策名	3-2 道路・情報インフラの整備<<情報インフラの整備>>	施策名	4 生活交通体系の構築
主な取組	ケーブルテレビ施設の更新【P40】	主な取組	過疎地域における交通手段の検討【P41】
<<「不足している」となった理由>> 施設更新の必要が差し迫っている本匠地域については、総務省の補助事業を申請し市直営で工事を発注する手続きを踏んだ。しかし、光化全体の事業計画に関し、一部民営化を行うことによって期間の短縮、市の負担軽減を行いたいという提案は十分な理解を得られないままとなった。また、使用料に関しては、改定の必要がある旨は区長会理事会等で説明はしたものの、具体的に金額等を提示するまでには至っていない。		<<「不足している」となった理由>> 平成30年度は、取組に至っていない。今後、調査・研究に取り組む。	

【5 評価が「D:遅れている」となった目標指標】

施策名	3-2 道路・情報インフラの整備《情報インフラの整備》		施策名	4 生活交通体系の構築	
指標名	ケーブルテレビ施設の光化整備率【P40】		指標名	路線バス1便当たりの利用率【P42】	
実績値	0%	目標値	45%	実績値	9.5人
《「遅れている」となった理由》 全体計画を当初18年間・75億円で予定していたが、一部民営化方式とすることで12年間・50億円に期間の短縮と事業費の削減が可能となることを提案。しかし5G等の最新技術への対応など不確定要素もあり、全体的な整備方針が確定していない状況であるが、市直営で行うエリアについては早期に光化する必要性が大きいことから工事発注手続きを行った。光伝送路の整備ペースとしては遅れている。			《「遅れている」となった理由》 基準値を下回る実績となったが、昨年10月からのバス路線再編により利用率の向上が期待される。		

【6 総合計画審議会、地域振興審議会で出された主な意見】

施策名	4 生活交通体系の構築	施策名	-
・コミュニティバスについて、将来どういうふうに行っているのが話題になる。周知も少なく、利用者も少ない。今後、免許返納者の増加も見込まれるので予約制のバスができると思う。他市の事例も参考に是非検討していただきたい。			

【7 政策の今後の展開】

水道事業について、水道の安定保持、老朽化施設の更新、災害等の対応が課題となっており、今後も老朽化した鑄鉄管の更新を計画的に行う必要がある。また、水道料金について、決算をもとに財政推計を行い、改定時期、改定額等について慎重に検討していく。

下水道利用の普及率について、宅内工事費の負担が大きいことが原因で伸びていないと考えられるため、融資制度を広く周知し、普及促進を図っていく。

道路インフラについて、市道の整備、維持補修は、市民の要望が多いため、今後も必要性や優先順位を考慮しながら実施していく。また、都市計画道路の見直しを今年度中に行い、計画に基づいた整備に取り組む。残土処理場の確保は、公共事業を進めるうえで喫緊の課題であり、土地所有者や地区住民の理解を得るため、丁寧な説明を行い処理場の確保に努める。

情報インフラについて、ケーブルテレビ施設の光化の工事期間の短縮や事業費の縮減等を検討し、全体計画を確定させ全域の光化の早期完了を目指していく。

公共交通網について、H30.10月の再編に伴いコミュニティバス路線が大幅に増加した。今後は、より利用しやすいものにするため、デマンド方式やフリー乗降区間の導入などを検討する必要がある。

さいき城山桜ホール等、大手前地区の整備については、当初予定より完成が遅れる見込みであるが、2020年のグランドオープンに支障がないように工事を進めていく。また、市街地グランドデザインの策定について、まちづくりテーマの再検討、公有財産の利活用、民間活力導入、実施計画の策定、駅前港エリアの魚市場のリノベーションの方向性等、スケジュールを十分配慮しながら今年度中に策定する。

政策評価調書

政策名	3 健康で安心して暮らせる共生社会の創生【保健医療福祉】		
総合計画頁	P44～49		

関係部局	地域振興部、福祉保健部、教育委員会
------	-------------------

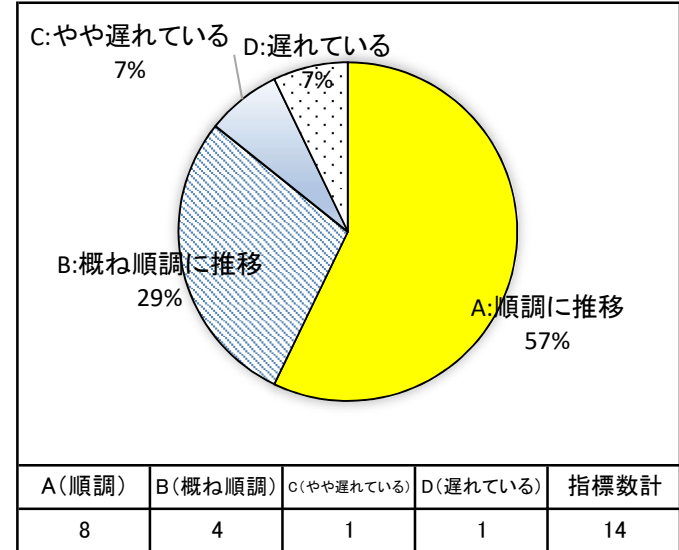
【1 政策の概要】

地域医療体制の整備や健康づくりの取組を推進する。あわせて、「地域共生社会」の実現に向け、多様な支援ニーズに的確に対応できる体制への転換を進めるほか、市民が世代や背景を超えてつながり、相互に支え合う地域づくりを進める。また、保育所の整備や保育士の確保を推進するなど、子育てしやすいまちづくりを目指す。

【2 政策を構成する施策の評価結果】※目標指標ごとの区分で作成

施策名		取組評価	指標評価	総合評価
1	地域医療と健康増進の充実	B	B	B
2	地域で支える福祉活動の推進	B	A	A
3	子どもたちが健やかに育つまちづくり	B	A	B

【3 各施策の目標指標の進捗状況】



【4 評価が「D:不足している」となった主な取組】

施策名	-	施策名	-
主な取組	-	主な取組	-

【5 評価が「D:遅れている」となった目標指標】

施策名	1 地域医療と健康増進の充実	施策名	-
指標名	悪性新生物標準化死亡比(壮年期)【P45】	指標名	-
実績値	男95.3 女86.5	目標値	男80以下 女75以下
≪「遅れている」となった理由≫ 男女ともにやや悪化している。H30年度からがん検診受診率向上のため、以下3つの体制整備を行った。①乳がん検診・子宮頸がん検診に加え、3がん(肺・胃・大腸)検診を新たに個別医療機関で実施。②子宮頸がん検診(個別医療機関)の年齢拡大。③健康経営事業所6か所での女性のがん検診の実施。今後、さらにかん検診受診率向上のため、南部保健所等の協力を得ながら、普及啓発や個人の健康づくりの意識の向上に努める。		≪「遅れている」となった理由≫	

【6 総合計画審議会、地域振興審議会で出された主な意見】

施策名	1 地域医療と健康増進の充実	施策名	3 子どもたちが健やかに育つまちづくり
	・健康診断について、企業から社員に呼びかけをしてもらえるような仕組みづくりや連携が取れば、予防に意識が向くのではないか。		・子育てに関する制度などの情報発信について、利用者がわかりやすく、戸惑うことがないように心遣いをしてほしい。 ・ファミリーサポートについて、旧佐伯市では充実しているかもしれないが、振興局管内にはあまりない。夜間の会議に出席するための一時預かりなどのサポートが充実したらいいと思う。

【7 政策の今後の展開】

<p>地域医療と健康増進の充実については、医療従事者の偏在・不足等の中、地域医療体制整備については、県・佐伯市医師会・関係医療機関の協力が必要であり、今後も佐伯地域に則った医療提供体制の構築を図るため、協議・調整を行っていくとともに、令和2年(2020年)4月の佐伯市医師会立佐伯准看護学院の移転・開校に向け、施設等の整備を図り、医療従事者の確保・養成を推進する。また、佐伯市民の健康寿命延伸のためには、特定健診結果に基づいた保健指導を行い、生活習慣病の発症・重症化予防を医療機関と連携してさらに進めていく必要があり、そのためには専門職の体制整備と事業の整理が必要である。</p> <p>地域で支える福祉活動の推進については、第3期地域福祉計画に基づき、地域共生社会の実現に向けた包括支援体制について検討していく。障がい福祉については、「佐伯市障がい者福祉計画(第3次)・障がい福祉計画(第5期)・障がい児福祉計画(第1期)」に基づき、「障がいのある人が自立した生活を送るとともに、ノーマライゼーションの理念を更に浸透させ共生社会の実現を目指す」を基本理念として、関連する法制度との整合性を踏まえながら、新たな課題やニーズに対応していく。また、地域全体で高齢者の生活を支援する地域づくりが6地区での取組となっており、他の地区での整備に向けて既に活動している地区の報告会などを行い、住民意識の向上や地域のサポート役である生活支援コーディネーターの積極的な支援により体制の整備を図る。また、地域包括支援センターの委託に向け、取組を加速化させる。</p> <p>子どもが健やかに育つまちづくりについては、母子保健事業においては、支援が必要なケースが増加していることから、切れ目のない丁寧な支援を継続していくために、臨床心理士、保健師等のマンパワーの充実が必要である。また、乳幼児健診未受診者が問題を抱えていることが多々あるため、確実に未受診者をフォローしていく体制の維持・継続が必要である。</p> <p>子育て世代の負担軽減のため、令和元年度のかまこども園、やよいこども園開園により待機児童解消を目指す。また、保育料の無償化などによるニーズ増も予想されるため今後の状況変化を注視するとともに、休日保育、預かり保育などの取組を加速させる。</p>
--

政策評価調書

政策名	4人が学び、人が生き、人が育つ教育の創生【教育文化】		
総合計画頁	P50～55		

関係部局	総合政策部、観光ブランド推進部、教育委員会
------	-----------------------

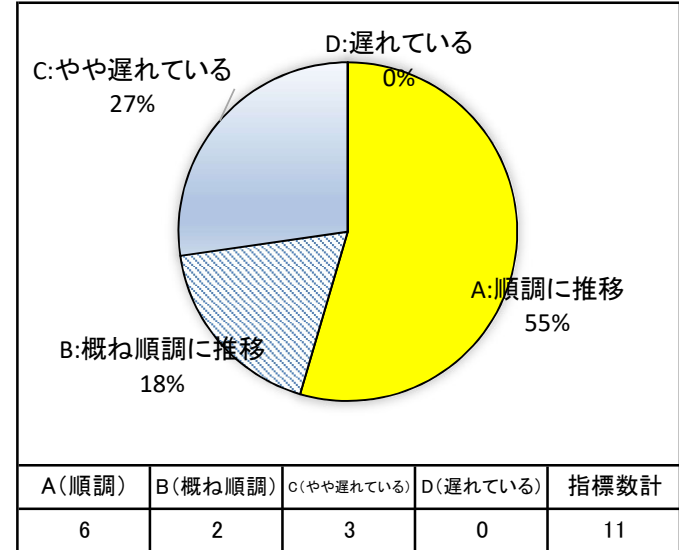
【1 政策の概要】

学力向上、体力向上、いじめ・不登校の問題に、重点的かつ継続的に取り組む。あわせて、地域と連携した学校づくりとして学校を核とした「ふるさと創生」の取組などを推進する。
また、生涯学習や生涯スポーツに参加する機会の充実や青少年育成、文化芸術等についても、積極的に取り組んでいく。

【2 政策を構成する施策の評価結果】※目標指標ごとの区分で作成

施策名		取組評価	指標評価	総合評価
1	学校教育の充実	B	A	B
2	生涯学習の充実	A	C	B
3	社会教育の充実	A	A	A
4	市民文化の創造と文化財・伝統文化の継承	A	A	A

【3 各施策の目標指標の進捗状況】



【4 評価が「D:不足している」となった主な取組】

施策名	-	施策名	-
主な取組	-	主な取組	-

【5 評価が「D:遅れている」となった目標指標】

施策名	-	施策名	-
指標名	-	指標名	-

【6 総合計画審議会、地域振興審議会で出された主な意見】

施策名	1 学校教育の充実	施策名	-
<p>・学校のAEDについて、休日のグラウンド使用時の事故に備え、外にもAEDを設置することを検討していただきたい。</p> <p>・児童数が年々減少しており、少ない学校では、野球やサッカーもできない状況である。今後も減少が続くと想定されるが、エリアを超えた学校の統廃合は考えているのか。</p> <p>・不登校で長期的に学校に行けない状況の子どもの学習が遅れている。図書館など様々な場所に子どもたちの居場所ができるとよい。</p> <p>・コーディネーショントレーニングをもっと普及させてほしい。また、講師の研修も積極的に実施していただきたい。</p>			

【7 政策の今後の展開】

学校教育では、児童生徒の学力の向上が喫緊の課題であり、習熟の程度に応じた指導に力を置き、定着までを見据えた授業改善を中心に取組を進めていく必要がある。また、特別な支援が必要な児童生徒への対応、外国語能力の向上に係るAPU、ALTの活用、姉妹都市等の交流の検討、不登校児童生徒の関係機関との連携したきめ細かい対応等を継続していく。

生涯学習では、生涯学習の拠点となる公民館の耐震診断を行い、計画的に施設を改修し、より使いやすい環境の整備に取り組む。また、スポーツツーリズムとして、嘉風閣の希望でもあった佐伯合宿や侍ジャパンの社会人野球日本代表など多くの合宿を誘致することができた。今後も本市の施設にマッチした見るスポーツの合宿誘致を行う行くとともに、体育施設の利用促進のため利用者のニーズを把握し満足度をアップさせ、市内外の多くの方がスポーツに取り組み、交流できる環境づくりを目指す。

社会教育では、「地域教育」・「協働教育」は、コミュニティスクールとの情報交換により、地域、家庭、学校との連携を図ることが求められている。また、子どもの体験活動の提供では、自然体験活動や文化体験のほか、科学への興味関心を醸成する基盤を作りながら、校区を越えた青少年の体験活動のすそ野を広げる事業展開が必要である。

国民文化祭では、市内外の方に本市の芸術・文化の魅力やポテンシャルの高さを示すことができた。今後は、2020年にオープンするさいき城山桜ホールを核として市民文化の創造、本物の芸術に出会える場の提供など地域で受け継がれてきた文化財、伝統文化を活用しながら次世代への保存継承を行っていく。

政策評価調書

政策名	5 地域資源をいかした産業と観光の創生【産業振興】
総合計画頁	P56～69

関係部局	地域振興部、観光ブランド推進部、農林水産部、教育委員会
------	-----------------------------

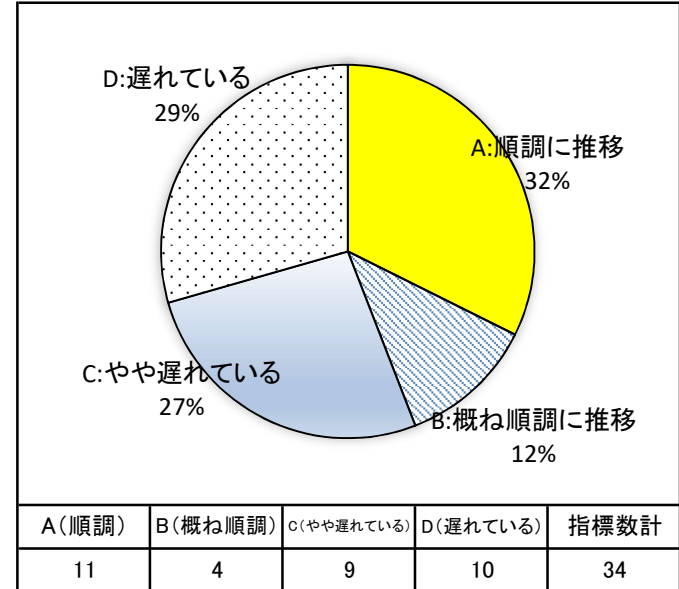
【1 政策の概要】

豊かな自然環境をいかした農林水産業の振興とその素材を活用したさいきブランドの確立に取り組む。
 商工業では、造船業や鉄鋼業など地域に根差した地場産業の活性化や佐伯港などをいかした企業誘致の推進に取り組む。
 また、課題である担い手不足を解決し、地域の活性化を図るため人材育成を推進する。
 観光においては、これまでの観光業に農林水産業や造船業等、地域の産業を観光化することで観光産業への転換を図るとともに、他地域にはない佐伯の強みをいかし、ターゲットを明確にして情報発信や誘客に努める。

【2 政策を構成する施策の評価結果】※目標指標ごとの区分で作成

施策名	取組評価	指標評価	総合評価
1-1 農業の振興<<水田農業の振興>>	B	B	B
1-2 農業の振興<<園芸作物の振興>>	B	B	B
1-3 農業の振興<<畜産の振興>>	A	A	A
1-4 農業の振興<<耕作放棄地対策>>	B	B	C
2 林業の振興	B	D	D
3 水産業の振興	B	D	C
4 ブランド化・流通の促進	B	C	C
5-1 商工業の振興<<工業の振興>>	C	B	B
5-2 商工業の振興<<商業・サービス業の振興>>	A	A	B
5-3 商工業の振興<<産業人材の育成と確保>>	B	D	C
6-1 観光産業の振興<<佐伯の強みをいかした観光素材の開発>>	B	-	B
6-2 観光産業の振興<<国内誘客の推進>>	B	C	B
6-3 観光産業の振興<<インバウンドの推進>>	B	-	B
6-4 観光産業の振興<<おもてなしの情報発信の充実>>	B	-	B
6-5 観光産業の振興<<推進体制>>	B	-	B

【3 各施策の目標指標の進捗状況】



【4 評価が「D:不足している」となった主な取組】

施策名	5-1 商工業の振興<<工業の振興>>	施策名	-
主な取組	地場産業の海外取引の促進【P65】	主な取組	-
<<「不足している」となった理由>> 台湾等の諸外国との経済交流の実施に至らなかった。		<<「不足している」となった理由>>	

【5 評価が「D:遅れている」となった目標指標】

施策名	1-2 農業の振興<<園芸作物の振興>>	施策名	3 林業の振興				
指標名	主要3品目の栽培面積(にら・キク・いちご)【P58】	指標名	林業研修所制度の参加者数【P61】				
実績値	35.3ha/年	目標値	41.4ha/年	実績値	延べ147人/年	目標値	延べ600人/年
<<「遅れている」となった理由>> キク農家2戸がハウス増設により0.29ha規模拡大したが、栽培面積は0.3ha減少し24.7ha、いちごは新規就農者(1組)が就農したことにより0.2ha増加して5.3ha、にらは新規就農者が1人就農したことにより0.2ha増加したが高齢化等により0.8ha減少したため5.3ha、主要品目の栽培面積の合計は35.3haとなり、対前年度比0.8haの減となっていることから遅れている。				<<「遅れている」となった理由>> 林業研修制度により林業技術等の向上を図っているが、研修受講者が減少しているため。			

施策名	3 林業の振興	施策名	3 林業の振興				
指標名	椎茸種駒植菌数【P61】	指標名	低コスト簡易作業路【P61】				
実績値	6,085千駒/年	目標値	9,130千駒/年	実績値	1,322m/年	目標値	3,000m/年
<<「遅れている」となった理由>> 生産者の減少と高齢化により椎茸種駒植菌数は減少しているため。				<<「遅れている」となった理由>> 生産者の減少と高齢化により、予定していた程の作業道は開設されていないため。			

施策名	3 林業の振興	施策名	3 水産業の振興				
指標名	木材生産量【P61】	指標名	水産業生産額【P63】				
実績値	208,556m ³ /年	目標値	340,000m ³ /年	実績値	220億円/年	目標値	260億円/年
<<「遅れている」となった理由>> 主伐型林業が進んでいるが、主伐適地から主伐条件不利地へと移行してきたこと及び作業員の減少と高齢化により木材生産量が減少したため。				<<「遅れている」となった理由>> 海面漁業においては、マイワシ等の漁獲量減少により生産額が減少した。 養殖業においては、疾病や赤潮被害による歩留まりの低下や、単価の下落等の要因により生産額が減少した。			

施策名	3 水産業の振興		施策名	4 ブランド化・流通の促進	
指標名	ヒラメ養殖生産額【P63】		指標名	市マッチングによる佐伯産食品の都市圏への新規納品店舗数【P64】	
実績値	9.7億円／年	目標値	15億円／年	実績値	3店舗(短期含む)／年
<<「遅れている」となった理由>> カボスヒラメの普及や赤潮対策等の振興策を実施した。しかし、全国的な単価の下落や魚病発生等の要因により、廃業やトラフグやカワハギなどへ魚種の転換を図る養殖業者が生じたため生産量が減少し、生産額が減少した。			<<「遅れている」となった理由>> 協議会で委嘱している福岡圏域を拠点としたアドバイザーや大分県福岡事務所からの情報をもとに都市圏の業者と市内事業者とのマッチング等を行ったが、目標に及ばなかった。受け身であったことが要因として挙げられるが、どのような方面に情報を発信していけばよいのかなどを研究していかなければならない。		

施策名	4 ブランド化・流通の促進		施策名	-	
指標名	市マッチングによる佐伯産食品の海外輸出国(総数)【P64】		指標名	-	
実績値	0か国	目標値	3か国	実績値	-
<<「遅れている」となった理由>> 平成28年度に商社と市内業者とのマッチングによりアメリカへのブリの輸出がスタートしたが、平成29年中に停止したことから、海外輸出国は皆無となった。平成30年度から改めてブランド流通促進協議会として佐伯産品の海外輸出に取り組むこととなり、現地商談会なども行ったが、取引には至らなかった。商談を行った企業の規模が大きすぎたりと、ターゲットのリサーチが不十分であった。			<<「遅れている」となった理由>>		

【6 総合計画審議会、地域振興審議会が出された主な意見】

施策名	1-1 農業の振興<<水田農業の振興>>		施策名	2 林業の振興	
・集落営農組織を作っても1、2年目は利益が出ず、運営が非常に難しい。せめて2年間程度は、運転資金の貸し付けを行っていただきたい。			・近年、機械が大型化しているが、昔開設した狭い林道も多く、十分な能力が発揮できる状況に山がなっていない。今後は、林道の開設ではなく、改修を中心に行っていただきたい。		

施策名	3 水産業の振興		施策名	4 ブランド化・流通の促進	
・定置網漁では、台風時期に多くの流木が網に入り、漁に支障が出ている。山・川・海と繋がっており、難しい問題であるが対策を考えていただきたい。			・ブランド化について、ターゲット、物を絞ってきちんとVRIO分析を行い、佐伯の強み、価値、希少性などを把握して売り出してほしいと思う。		

施策名	5-1 商工業の振興<<工業の振興>>		施策名	6-2 観光産業の振興<<国内誘客の推進>>	
・人口減少を抑えることは難しいと思うので、生産性を上げることが必要となる。「生産性＝人×教育」だと思うので、人が不足する部分は教育でカバーしなければならない。佐伯市全体のキャリアプランを作成し、全階層が勉強していけば生産性は必ず上がる。			・スポーツツーリズムについて、ツール・ド・佐伯は1,800人を超える参加者があるが、企業経営者が中心で運営しており、手間もかかるため両立が大変なようだ。自転車だけでなく、海など人を呼び込める要素があるので、運営面など市が手を貸してくれば色々な形で人が呼び込めると思う。		

【7 政策の今後の展開】

農業の振興については、農村地域における高齢化と後継者不足による生産基盤の弱体化や規模縮小、農地の荒廃化等への対策が課題となっている。経営基盤強化としての集落営農組織の法人化が困難な状況の中、将来に渡り安定的に経営に携わるものへの経営規模拡大の支援が必要である。佐伯地域農業経営サポート機構の調整機能を充実させ、広域連携による総合的な集落営農支援に資する施策を進めていく。園芸作物では、有機農業を推進するため、実践の場となる第2市民ふれあい農場を開設する。

林業の振興については、造林分野の担い手不足のため、県の林業研修制度の利用促進を図り、林業研究グループへの支援を行うとともに、再生林の担い手確保のため新規参入者のOJT研修等行う。椎茸生産では、生産量の安定のため、ハウスなどの生産施設の導入支援を行うとともに、椎茸原木林の維持に努める。市産材の利用では、木造住宅への助成を見直すことになったが、今後は、県と連携し販路拡大を検討していく。

水産業の振興については、養殖漁業の赤潮被害の軽減を図るためのヒラメ養殖での地下海水の利用促進や、沖合養殖場での赤潮監視体制の強化により安定生産をめざす。また、マグロ養殖では赤潮被害を軽減する養殖生け簀の整備支援などにより生産基盤を強化し、生産を伸ばしていく。

ブランド化の流通・促進では、福岡圏域をターゲットに佐伯市産品のPRを行う。また、さいき殿伝について事業者へのアンケート調査を実施し、認証制度の在り方の検討を行う。

商工業の振興については、工業では、若者や女性が働くニーズが高いオフィス系企業の誘致を推進するため、民間企業を活用した企業誘致対策を図る。また、商業では、創業支援件数やまちゼミ等による商店の取組も増加しているが、中心市街地の空き店舗は多い状況である。今後も創業や事業拡大に取り組む経営者を積極的に支援し、空き店舗の利活用を図る。産業の人材の育成では、企業セミナーや産業教育など市内の企業を広く知ってもらうための取組や就職者を対象とした奨学金の返還支援を行っていく。

観光産業の振興については、佐伯の強みをいかした観光素材の開発では、新ツーリズム戦略に沿い、佐伯の歴史、文化、人を魅せるスローツーリズムの展開、スローフードとカジュアルフードを並行したフードツーリズムの推進、佐伯の自然と体験やアクティビティーを組み合わせたエコツーリズムの推進、地域産業を魅せる生業ツーリズム推進、総合運動公園やさいき城山桜ホールを活用して各種合宿や大会を誘致する文化スポーツツーリズムの取組を推進する。また、国内誘客、インバウンドの推進では、国内の重点エリアである福岡都市圏、大分市周辺、宮崎県北地域を中心とした地域でのPR活動や韓国、台湾島等で開催される商談会、展示会等に積極的に参加し現地旅行会社等への売り込み等を行い、佐伯市の知名度を向上させ国内外から誘客を図る。

政策評価調書

政策名	6人が交流し、活力あふれるまちの創生【まちづくり】
総合計画頁	P70～79

関係部局	総務部、地域振興部、観光ブランド推進部、市民生活部、農林水産部、教育委員会
------	---------------------------------------

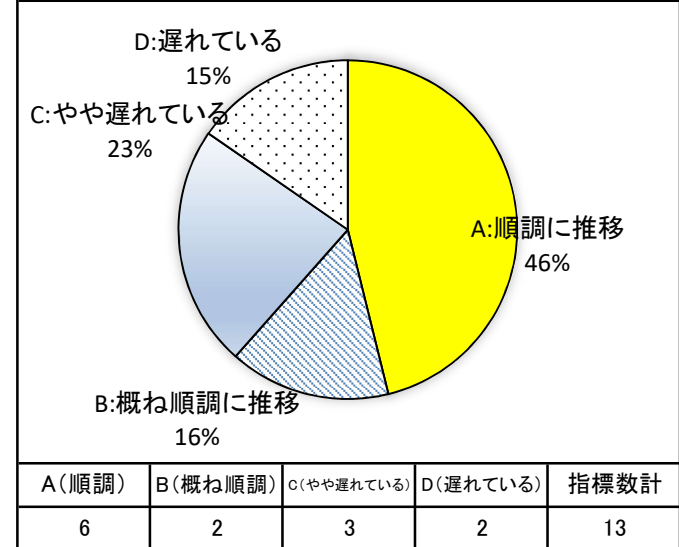
【1 政策の概要】

人権教育や啓発などの人権施策、男女共同参画における意識向上の施策、NPO法人やまちづくり団体のサポートなど市民と協働したまちづくりの施策に取り組む。また、恵まれた食資源や食文化をいかした「食」のまちづくり、過疎化や人口減少に対する移住・定住の推進、異文化交流などの国際化の推進、市民ニーズに対応した行政サービスの充実など様々な施策によるまちづくりを推進していく。

【2 政策を構成する施策の評価結果】※目標指標ごとの区分で作成

	施策名	取組評価	指標評価	総合評価
1	人権を尊重するまちづくり	A	B	B
2	男女共同参画のまちづくり	C	D	C
3	市民協働のまちづくり	B	B	B
4	「食」のまちづくり	A	A	A
5	移住定住の促進	A	B	B
6	国際化の推進	B	C	B
7	市民サービスの充実	A	B	B

【3 各施策の目標指標の進捗状況】



【4 評価が「D:不足している」となった主な取組】

施策名	-	施策名	-
主な取組	-	主な取組	-

【5 評価が「D:遅れている」となった目標指標】

施策名	2 男女共同参画のまちづくり	施策名	7 市民サービスの充実
指標名	各種委員会、審議会等における女性委員登用率【P72】	指標名	交通事故死者数【P79】
実績値	29.1%	目標値	40%
実績値		実績値	6人/年
		目標値	2人以下/年
≪「遅れている」となった理由≫ 各種委員会、審議会等における女性委員登用率が、0.8ポイント下降しているため。		≪「遅れている」となった理由≫ 年間目標である交通事故死者数2人を4人上回ってしまったため。	

【6 総合計画審議会、地域振興審議会が出された主な意見】

施策名	-	施策名	-

【7 政策の今後の展開】

人権については、「人権尊重のまちづくり条例」や「人権施策基本計画」に基づいて人権教育・啓発活動に取り組んでいるが、今もなお部落差別問題を始めとする様々な人権問題が存在している。人権が尊重される社会を実現するために家庭、地域、学校、職場などにおいて、機会あるごとに効果的な人権教育・啓発を推進していく。

男女共同参画については、意識がまだまだ低く、審議会等の女性委員の登用率も進んでいない状況である。今後は、第4次佐伯市男女共同参画計画のダイジェスト版の全戸配布や周知・啓発活動を行い、市民への意識浸透を図る。

市民協働のまちづくりについては、まちづくり団体の育成や相互交流を図る活動が乏しく登録団体数は微増にとどまった。今後は、さいき城山桜ホールの開館も視野に入れ、市民団体が活発に交流し、より一層多くの市民が街づくり活動にチャレンジする雰囲気づくりに取り組んでいく。

「食」のまちづくりでは、これまで食育を通して、人づくり、地域づくりを行ってきた活動により、現在は市民が主体となり自発的に取り組むなど持続可能な「食」の取組が醸成されている。今後も市民全員で実践する食育がさらに醸成できるよう、「食」を通じた人材育成と地域振興に取り組む。

移住定住については、近年、田舎暮らしへの関心が高まっている中、移住相談会への参加、各種制度を一括して提供するポータルサイトの充実を図ることで移住者数の増加につなげていく。

国際化の推進については、姉妹都市を対象とした取組では、民間交流等市民レベルや経済交流に繋がっていないため、国際交流では、既存の交流を見直しつつ、新たに台湾を始め、東アジア諸国やベトナムとの交流を図る。外国語教育では、小学校での英語教育を着実に進めるとともに、海外への留学支援についても台湾中心に事業計画について検討する。

市民サービスの充実については、人口減少や少子高齢化が進み、地域コミュニティが希薄化している現状をくい止め打開し、市民が安全安心に暮らしていけるよう、引き続き自治、防犯、地域安全活動等の取組を進める。また、行政情報発信では、市報、ホームページ、ケーブルテレビ等を活用するほか、民間活力の導入等の検討により効率・効果的な広報媒体ごとの情報提供の充実を図る。

政策評価調書

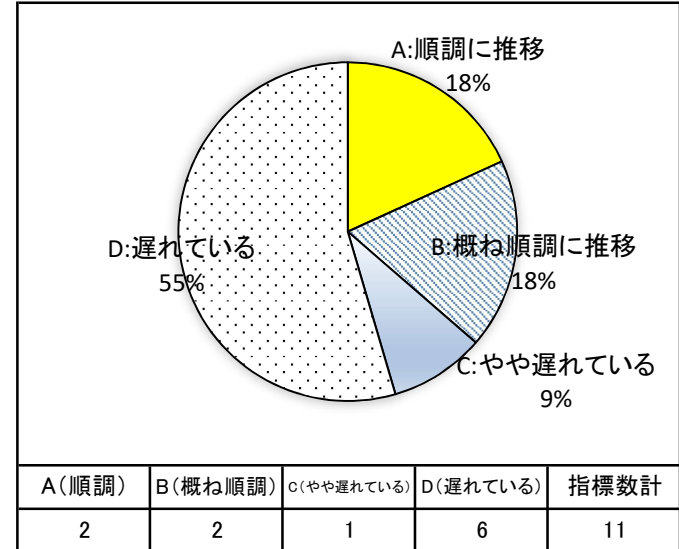
政策名	7 地域が輝くまちの創生【地域活性化】
総合計画頁	P80～97

関係部局	地域振興部、各振興局
------	------------

【1 政策の概要】

人口減少、少子高齢化が進む中、周辺部地域に根付いてきた文化、伝統や産業の継承が難しくなっている。こうした周辺地域の課題を解決するため、それぞれの地域の特性を生かしたまちづくりを積極的に進めていく。

【3 各施策の目標指標の進捗状況】



【2 政策を構成する施策の評価結果】※目標指標ごとの区分で作成

施策名	取組評価	指標評価	重プロ評価	総合評価
1 人が集い、元気が生まれ広がる、新たなまちへ ～佐伯地域～	B	C	B	B
2 マグロ養殖と花の咲くまち かみうら ～上浦地域～	C	D	D	C
3 人もまちも美しい快適居住空間のまち、弥生 ～弥生地域～	B	D	C	C
4 よし 最高の水あそびを 用意しよう！ ～本匠地域～	B	B	B	B
5 ユネスコエコパークを活用した持続可能な地域づくり ～宇目地域～	A	D	A	B
6 人と地域がささえあい 安心と活力に満ちた里 直川 ～直川地域～	B	D	B	B
7 海に寄り添い海と生きる、安心快適な鶴見地域 ～鶴見地域～	B	B	B	B
8 人口増へ！米水津からの情報発信 ～米水津地域～	B	A	B	B
9 海の恵みを活かすまち蒲江 ～蒲江地域～	B	D	B	B

【4 評価が「D:不足している」となった主な取組】

施策名	-	施策名	-
主な取組	-	主な取組	-

【5 評価が「D:遅れている」となった目標指標】

施策名	指標名	実績値	目標値	施策名	指標名	実績値	目標値
2 マグロ養殖と花の咲くまち かみうら ～上浦地域～	河津桜の本数(総数)【P83】	133本	600本	2 マグロ養殖と花の咲くまち かみうら ～上浦地域～	ジャカラダの本数(総数)【P83】	9本	50本
<<「遅れている」となった理由>> 県道四浦港津井浦線は地形的な問題で植栽可能な場所が少なく、さらに公共用地となると極々限られた場所しか利用できない。地元区長会から全面的な協力をいただいているが、地区所有の土地も限られており植栽場所の選定がなかなか進まない。平成30年度末時点で目標値の1/5程度にとどまっているため、遅れていると評価とした。				<<「遅れている」となった理由>> 平成29年度は3年物のジャカラダを夏井公園へ試験的に植栽したが、生育状況はあまり良くない。平成30年度は2年物をマリノポリス記念公園へ植樹した。生育方法が手探りの状態で、思い切った本数を植える環境が整っていない。			

施策名	3 人もまちも美しい快適居住空間のまち、弥生 ～弥生地域～		施策名	5 ユネスコエコパークを活用した持続可能な地域づくり ～宇目地域～	
指標名	「道の駅やよい」の来場者数【P85】		指標名	観光の要となる道の駅宇目の集客数の増加【P89】	
実績値	335,346人	目標値	414,694人	実績値	96,943人
		目標値		実績値	160,000人
<<「遅れている」となった理由>> 道の駅やよいの指定管理が民間事業者へと移行する事が決定し、具体的な方向性が定められない中で、来場者数の増加に繋がる大規模な施策を実施する事ができなかった。			<<「遅れている」となった理由>> 平成27年の東九州道の開通により、国道326号線の交通量の減少が続いていることに加え、平成30年度には指定管理者の変更もあり、道の駅宇目周辺の活性化として予定していた感謝祭も未実施となった。		

施策名	6 人と地域がささえあい 安心と活力に満ちた里 直川 ～直川地域～		施策名	9 海の恵みを活かすまち蒲江 ～蒲江地域～	
指標名	観光施設入場者数【P91】		指標名	蒲江独自の新たな観光推進による観光入込客数【P97】	
実績値	64,987人	目標値	85,300人	実績値	434,103人
		目標値		実績値	650,000人
<<「遅れている」となった理由>> 直川憩の森公園・鉱泉センター直川・直川カントリー倶楽部の入場者数の推移については、施設の老朽化及び観光客等のニーズに対し十分応えられていないことが要因と考えられる。今後は各施設のリニューアルと誘客のためのイベント等について協議・検討していかなければならない。			<<「遅れている」となった理由>> 蒲江の地域資源をいかした観光メニューの開発や蒲江ブランドの情報発信等について、各種取り組みを実施しているが、観光入込客数が大きく減少しており、新たな観光スポットの整備やPR等を通じて観光客数の増加を目指しているものの伸び悩んでいる。		

【6 総合計画審議会、地域振興審議会が出された主な意見】

施策名	1 人が集い、元気が生まれ広がる、新たなまちへ ～佐伯地域～		施策名	2 マグロ養殖と花の咲くまち かみうら ～上浦地域～	
<ul style="list-style-type: none"> ・観光地としてWi-Fi環境の整備を進めてほしい。 ・観光交流館のレンタサイクルについて、市内外の人に広く知ってもらいたいと思う。 ・まちなかに、子どもたちが集まり遊べる場所があると思う。 ・総合運動公園施設の機器の不具合や芝生のはげ、効率的な使用許可の仕組み(誰も使っていないのに使用できない時がある)について改善してほしい。 			<ul style="list-style-type: none"> ・瀬会海岸休憩所の有効な活用を考えてはどうか。使用したい人が自ら改修するようになれば借りたい人は多いのではないかと。有効利用するために、改修する初期投資の分だけでも市が応援できないか。 ・巡回診療の利用者が少なく、認知度が低い。周知については、地区回覧は字が多く読みづらい。周知方法を工夫し、徹底を望む。 		

施策名	3 人もまちも美しい快適居住空間のまち、弥生 ～弥生地域～		施策名	4 よし 最高の水あそびを 用意しよう！ ～本匠地域～	
<ul style="list-style-type: none"> ・一斉避難訓練について、学校から生徒と保護者に参加の呼びかけをしてもらいたい。 ・道の駅やよいを拠点するなら周辺の整備を早急にしてもらいたい。 ・弥生地区は内水に弱い地域で避難できる場所も少ない。取り壊しが決まっている弥生中央公民館の跡地利用については、振興局の建替え、避難場所、地域リーダー育成の拠点等の機能を備えた複合施設として、将来的な構想を持ってもらいたい。 			<ul style="list-style-type: none"> ・菜の花100万本プロジェクトや岩屋の千本桜などの取組も順調に進んで誘客促進につながっていると感じる。 ・観光客の誘客については、誘客実績のある沿岸部等との連携を図る必要があるのではないかと。 ・コミュニティバスについて、大分バス運行時よりも利用しやすくなったと感じる。引き続き利便性、利用率の向上に向けた改善をしていただきたい。 ・日本匠東中学校跡地について、有効利用に向けた検討をお願いしたい。 		

施策名	5 ユネスコエコパークを活用した持続可能な地域づくり ～宇目地域～		施策名	6 人と地域がささえあい 安心と活力に満ちた里 直川 ～直川地域～	
<ul style="list-style-type: none"> ・特産品のアピールで若者に米や乾いたけを配っても食べ方がわからず無駄になっている。加工品などにすぐ使用できるものの開発が必要ではないか。 ・閲覧が必要なホームページよりもSNSを使った情報発信の方が効率的ではないか。 ・道の駅宇目の開店時間を大口客にあわせた柔軟な対応ができないか。 ・宇目農林産物等直売所で売れ残り廃棄されている農産物を地元の加工グループなどで利用することができないか。 			<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスはデマンド化してほしい。人が乗らずに走行しているのはもったいない。 ・花桃の植樹はとてもいいことだと思う。グリーンツーリズム利用者に植えてもらったり、鉄道フォトコンテスト時に映える場所への植樹などではどうか。 ・鉱泉センターは利用者が少ない。佐伯市で唯一の鉱分が入ったお湯なのでもっとPRしてほしい。 		

施策名	7 海に寄り添い海と生きる、安心快適な鶴見地域 ～鶴見地域～	施策名	8 人口増へ！米水津からの情報発信 ～米水津地域～
<ul style="list-style-type: none"> ・鶴見半島先端部の観光地への道路整備が必要ではないか。 ・地域ボランティア団体への援助、育成を進めてもらいたい。 ・地域に適した企業の誘致を進めてもらいたい。 ・観光や水産情報のSNS発信を推進してもらいたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスをもっと地域の実情に応じた運行にできないか。 ・地域の子どもの減少を切に感じる。市外からの移住定住促進も大事だが、地域の人が地域の良さを感じ留まるような対策が必要ではないか。 ・公園の廃止や遊具の撤去が進んでいる。子どもが集う遊び場を確保してほしい。 ・市営住宅の空き部屋が増えているが制限が多く入居できない。地域の意見を聞き、入居条件の緩和ができないか。 	

施策名	9 海の恵みを活かすまち蒲江 ～蒲江地域～	施策名	-
<ul style="list-style-type: none"> ・高平展望公園やされいな海岸など魅力ある資源が多くあるので、人々が訪れたいくなるようなきっかけ作りをしてほしい。 ・コミュニティバスの発着場である道の駅かまえに風雨がしのげる待合室を設置してほしい。 ・閉校した学校施設や空き家を放置していると地域が廃れた印象になるので活用策を検討してほしい。 ・旧蒲江振興局の跡地利用については、既に施設も解体されているため早急に活用案を地区に提示してほしい。 			

【7 政策の今後の展開】

人口減少、少子高齢化が進む中、周辺部地域に根付いてきた文化、伝統や産業の継承が厳しくなっている。こうした周辺地域の課題を解決するために、それぞれの地域の特性を生かしたまちづくりを積極的に支援していく。